

## 平成23年度 実施メニュー実施結果表

No. 22

東北森林管理局

取組名	間伐材の利用促進と木材の安定供給(継続)
流域名	馬淵川上流流域
森林管理署名	岩手北部森林管理署
実施箇所及び実施日	平成23年度素材・立木販売意見交換会 平成23年4月21日(木)
取組の背景及び必要性	森林整備に伴う間伐材の利用促進収入の拡大を確保する必要があること、また関係事業者のニーズ・要望があることから、国有林材の需要・販路の確保・拡大を図り併せて地域における素材生産事業者の育成に取り組む必要がある。
取組の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間の立木、素材の供給見通し等の説明会を開催した。 (開催日 平成23年4月21日) 参加者 素材生産業及び木材加工業の23社</li> <li>・年間計画に基づき、木材会社等へ素材を供給した。 (約9,883m<sup>3</sup>)</li> <li>・土木工事等へ積極的な使用を実施した。 (約645m<sup>3</sup>「素材換算値使用」)</li> </ul>
国有林担当部局・役割	岩手北部森林管理署、販売課、治山課
連携協働相手先・役割	
取組の結果、反響、今後の課題等	<p>木材産業関係者へ安定的、計画的に間伐材等を供給することができた。</p> <p>また、木材利用を拡大することにより低炭素社会へ貢献することができた。特に需用者等の拡大を図る必要がある低質材等については、安定供給システムによる販売に努め地域の担い手の育成につながっている。今後も意見交換会を開催し、業界のニーズ、要望等を把握するなど情報の共有が必要であると考え</p>
PRの実施状況及びその期待する効果	<p>関係業界と情報交換を行うことにより国有林の取組みが理解される。</p> <p>森林整備により発生する間伐材等の安定的・計画的な供給体制が構築でき、地域振興に寄与することができる。</p>

【参考資料】

取 組 名

間伐材の利用促進と木材の安定供給（継続）



署長挨拶



意見交換会の様子



選別巻立の様子



森林教室での間伐材見学

## 平成23年度 実施メニュー実施結果表

No. 23

東北森林管理局

取組名	間伐の推進を図るための現地検討会の開催(継続)
流域名	馬淵川上流流域
森林管理署名	岩手北部森林管理署
実施箇所及び実施日	岩手県八幡平市八幡平山国有林(16い林小班) 平成23年10月18日(火)
取組の背景及び必要性	効率的な間伐作業システム(高性能林業機械導入による列状間伐の推進)の普及と、国有林と民有林の連携による集約化施業団地の設定に向けて流域活性化協議会、県等と連携して現地検討会を開催した。
取組の内容	<p>馬淵川上流流域森林・林業活性化センターとの共催により、効率的な間伐作業システム(高性能林業機械導入による列状間伐の推進)の普及・定着を図るため、間伐現地検討会を開催した。</p> <p>県担当者による補助金制度の説明、森林管理署担当者による事業内容の説明、請負事業者による高性能林業機械による間伐作業の実演を行った。また、同システムの普及、定着を図るための意見交換を行った。</p> <p>参加者：馬淵川上流流域森林・林業活性化センター、二戸農林振興センター、関係市町村、事業者等41名</p>
国有林担当部局・役割	岩手北部森林管理署 国有林で実施している施業の説明
連携協働相手先・役割	県(二戸農林振興センター) 馬淵川上流流域森林・林業活性化センター
取組の結果、反響、今後の課題等	間伐の推進に向けた、高性能林業機械導入による効率的な作業システム及び国有林と民有林の連携による集約化施業団地の設定等について、森林所有者等に理解してもらうことが必要であり、継続した現地検討会の開催について関係者と協議しながら進めて行くことが必要である。
PRの実施状況及びその期待する効果	民・国連携した間伐現地検討会の開催により、効率的かつ低コストな作業システムによる技術の開発・普及が図られる。

【参考資料】

取 組 名

間伐の推進を図るための現地検討会の開催



県北振興局林務室長挨拶



森林管理署長挨拶



現地説明をする監督職員



ハーベスタによる集材



巻立て状況



フォワーダへの積込状況

## 平成23年度 実施メニュー実施結果表

No. 24

東北森林管理局

取組名	天然更新を活用した牧草地の森林技術の開発(継続)
流域名	馬淵川上流流域
森林管理署名	岩手北部森林管理署
実施箇所及び実施日	岩手北部森林管理署 矢神岳国有林、苗代沢山国有林 平成21年度～25年度
取組の背景及び必要性	国有林に点在する永年使用されていない牧野を、天然更新を活用した森林化試験を導入し、早期に低コストな手法で森林化を図り、公益的機能の向上と野生生物との共生を図る森づくりを八幡平市と共同研究により進めている。
取組の内容	<p>林野庁技術開発重点課題として、平成21年度から5カ年計画で技術開発に取り組んでいる。21年度に標高の異なる根石、丑山の2事業区に工法の比較ができる試験区を設定し調査を開始している。</p> <p>平成23年度までの実施状況としては、丑山事業区のバックホウ搔起しによる天然更新区や、ミズナラ等の播種区の更新状況が良好である。24年度も23年度に引き続き、野生生物の利用促進と種子散布を活用した施工方法の試験に取り組んでいく。</p>
国有林担当部局・役割	岩手北部森林管理署
連携協働相手先・役割	八幡平市、森林総合研究所、林木育種センター
取組の結果、反響、今後の課題等	事業期間が平成25年度までであり、最終結果はまだ先となるが一部成果が見えてきた面もある。今後はこの成果を基礎とした牧野全体の森林化計画案を具体化させ、地形や条件の違いによる有効な施工方法を選択し、現地実態に合わせた天然更新・播種・植栽などのゾーニングをしていく。
PRの実施状況及びその期待する効果	八幡平市と連携し、広報誌やマスコミへのプレスリリースを行いP・Rすることにより、市民参加の育樹・植樹活動を展開し、行政と市民が一体となった活動が展開できる。

【 参 考 資 料 】

取 組 名

天然更新を活用した牧草地の森林技術の開発



農業用トラクタによる掻起こし(春)



試験区設定時の状況



建設用バックウによる掻起こし(秋)



2年目植生回復状況



試験区調査状況



森林教室での播種体験

## 平成23年度 実施メニュー実施結果表

No. 25

東北森林管理局

取組名	生物多様性保全のための森林整備・緑の回廊における野生動物の調査(継続)
流域名	馬淵川上流流域
森林管理署名	岩手北部森林管理署
実施箇所及び実施日	平成23年5月中旬から23年10月下旬 岩手県八幡平市安比岳国有林外
取組の背景及び必要性	緑の回廊における有効機能の調査、国民のニーズに応じた野生動物植物の保護に向けて多様で健全な森林整備を図る必要がある。
取組の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑の回廊(安比岳国有林内)に24時間監視によるビデオカメラを設置、野生動物のモニタリング調査を実施した。</li> <li>・生息・生育する野生動物の広域的なつながりの確保(緑の回廊整備伐)、数多くの種類の野生動物が生きていくための餌場の確保(稀少野生動物保護管理事業)をするために人工林において針広混交林化等多層構造の森林整備(抜き伐り)を6.67ha実施した。</li> </ul>
国有林担当部局・役割	岩手北部森林管理署
連携協働相手先・役割	森林総合研究所東北支所
取組の結果、反響、今後の課題等	過去に列状間伐を実施した林内において、クマタカの菜餌跡も確認されている。また「緑の回廊」設定指標種であるツキノワグマの姿が監視カメラ等により確認されているなど、野生動物の広域的な繋がりの確保も確認されており、森林総合研究所東北支所と連携したモニタリング調査及び生物多様性保全のための森林整備は国民からのニーズも高いことから引き続き今後も実施していくことが必要である。
PRの実施状況及びその期待する効果	署のHPや各種会議での報告、マスコミ等へのプレスリリースにより国有林が取り組んでいる緑の回廊、生物多様性の取り組みについてPRができる。

【参考資料】

取 組 名 生物多様性保全のための森林整備・緑の回廊における野生動物の調査



録画用ビデオ施設



監視カメラ（夜間用）



ニホンシカ(森林総研提供)



カモシカ(森林総研提供)



ノウサギ(森林総研提供)



稀少野生動植物種保護管理事業  
整備後の状況



## 平成23年度 実施メニュー実施結果表

No. 26

東北森林管理局

取組名	市町村・地域住民と連携したフィールドの整備(継続)
流域名	馬淵川上流流域
森林管理署名	岩手北部森林管理署
実施箇所及び実施日	岩手県八幡平市安比岳国有林470い林小班外 平成23年10月27日(木)
取組の背景及び必要性	地域住民からの森林環境、自然環境に対するニーズ、要望がさらに高まっていることから、市町村、地域住民と連携しフィールドの環境整備を行う必要がある。
取組の内容	<p>八幡平市と協定締結している「あっぱ高原遊々の森」中の牧場において、10月27日(木)八幡平市と共催、ボランティア団体や地域住民約60名が参加、芝草草原に侵入したかん木・ササの刈り払い焼却等の環境整備を実施した。</p> <p>ぶなの駅において、署の担当者が森林環境に関する活動状況、八幡平市より次年度に向けた取り組みについてそれぞれ報告した。</p> <p>その後、ヤナギラン、草原の植生の復活活動について何が必要かについて意見交換会を開催した。</p> <p>12月5日(月)には、八幡平市、ボランティア団体等の代表による会議を開催、今後の取り組みについて意見交換した。</p>
国有林担当部局・役割	岩手北部森林管理署
連携協働相手先・役割	八幡平市
取組の結果、反響、今後の課題等	<p>かん木の除去作業等の環境整備の結果、ヤナギランの群生が復活してきている。</p> <p>「遊々の森」の協定を八幡平市と6月に更新した。引続き草原植生の復元活動・イベントの開催を実行できるように地域住民・ボランティア団体による活動組織の強化を図る必要がある。</p>
PRの実施状況及びその期待する効果	八幡平市、地域住民、ボランティア団体に働きかけることにより、国有林と地元住民等との交流が深まり、開かれた国有林をPRすることができた。

【参考資料】

取組名

市町村・地域住民と連携したフィールドの整備



八幡平市長挨拶



署長挨拶



芝草原整備状況



環境整備状況



焼却状況



意見交換会状況

